

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774600650		
法人名	有限会社 介護センターかがやき		
事業所名	グループホーム かがやき(1)		
所在地	柏原市上市三丁目13番16号		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成23年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の健康管理について、主治医との連携図り指示のもと職員が気を配り健康管理維持に努めている。又健康状態が維持できるよう早期発見に努め、状態が悪化しないよう利用者それぞれの状態に合わせたケアを日常生活やレクリエーションに取り入れている
 ・朝・夕と申し送りの時間を多く取り利用者の状態を職員全体で把握しチームケアの徹底に努めると同時に、問題点について意見交換行い対応する事で利用者にとって安心・安全・充実した生活が出来るよう取り組んでいる
 ・畑や花壇が敷地内にあり利用者がいつでも自由に利用できるようになっており日常生活の中でのリハビリや気分転換を図られるようになっている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者は住み慣れた柏原地区で介護関連事業を通して、高齢化社会での認知症の方がその人らしく生活するグループホームの必要性を強く認識し、平成16年12月に設立した。設立にあたって地域住民の理解や市の担当者の窓口の相談と情報収集に努め、双方向的な協働関係は現在も継続されている。職員の質の向上に日頃から取り組み、個人の能力に応じた内・外の研修を奨励し、事業所のレベルアップに努めている。法人の介護関連事業所が同じ敷地内にあり、情報交換・火災訓練・四季折々の行事を、合同で行い交流の場と機会を幅広く取り入れている。又中学生の体験学習や職員の子供達とをで、世代を超えた関係作りを設け、生活の質の豊かさを目指し工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で家事や趣味を通じ住み慣れた自然の多い町で共同生活を楽しむ」を理念とし、業務中常に見える場所へ理念を掲示している	常に見える玄関と各フロアに理念を掲示して、職員全員が地域生活でのケアのあり方を認識し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から笑顔で挨拶を心がけ年末年始の挨拶周りやホームの刊行物の配布等を行っている。又自治会掲示板を利用したボランティア(子供会や老人会)の参加を呼びかけている	日頃の散歩中で挨拶を交わしたり地区の方がホームで様々な手伝いをする等地域の交流が構築されている。市の文化祭・コンサートの催しの参加や小学校の運動会の見学など色々な機会の中でつながりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や地区会長等と交流を持ったり小中学校などの教育機関との連携を図り体験学習などの受け入れを実施し、地域の方に認知症の人の理解を得られるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを決め、それに応じた各専門職者や入居者家族からの意見や要望があるまた食事や行事などホームで提供しているサービスを実際に見てもらうことで感想や要望が頂けサービス向上に活かされている	2ヶ月に一回家族・民生委員・地域包括支援センター・高齢介護課・介護業務係・薬剤師と多彩なメンバーで開催している。ホームの報告や取り組み内容と課題を話し合い、貴重な意見やアドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所が近く毎月1回は利用者と共に散歩を兼ね立ち寄っている。又情報提供や報告・相談を適時に行い協力関係の構築に取り組んでいる。保護課の方が3ヶ月に1回は来て下さる	市役所が近く利用者と共に訪れ、設立時からの交流を持続している。情報提供や相談を行い、事業所の実情説明をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームで考えられる核当ケースを検討、具体的な事例と共に身体拘束に係るマニュアルを作成し全職員に周知させている。又より理解を深める為、所内研修の実施や所外研修の受講を勧めている	身体拘束をしないケアの実践の大切さについて全職員が認識している。玄関・非常口は、施錠せず見守りや開閉時のブザーで安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	所内・所外研修を実施している。毎月最終木曜日に再発防止会議を行いケースの検討をしている。又、申し送りの際に意見交換を行い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に後見人がついての方がおられる為地域包括支援センターの権利擁護担当者との係りの中で役割や制度の説明を受けており実践している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に必ず見学と家族間での話し合いをお願いしている。契約・解約時には時間を十分に設け説明しており質疑等に納得されるまでお答えしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口および担当者を設置し、介護相談員の受け入れを実施している。運営推進会議の参加を呼びかけ希望者に出席して頂き意見伺い反映できるよう取り組んでいる	家族の来訪時や運営推進会議家族参加の折など、機会と場面作りを行い、意見や要望が出るよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝・夕の申し送りや勤務時間外にも職員が意見や提案を提案する機会を設けている。定期的に職員全体のケアカンファレンスを行っている	代表者が日頃から職員と共にケアを行い、現場で随時意見を聞きサービスの向上に役立っている。定期的に職員全体でカンファレンスを行いコミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は個人の能力把握に努め、それに見合った給与水準や配置を心がけている。人員に余裕を持たせ日々の業務におわれる事のないようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量や勤務年数に応じた外部研修を受けさせている。外部研修の情報を職員が自由に閲覧できる場所へ掲示し受講を奨励している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症高齢者グループホーム協議会や柏原・八尾の事業所連絡会に参加している。独自に近隣のグループホームと協力し情報の共有とサービスの質の向上の為職員間の自由交流や見学、実習受け入れなど		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に在宅や病院などに職員が数回訪問し本人や家族、ケアマネージャー等から聞き取りを行っている。又可能であればホームを見学して頂き設備や環境等を詳しく説明し感想・意見を伺っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅や病院訪問での聞き取りとホーム見学を兼ねての聞き取りを行っている。又出来るだけ多くの家族とお話する時間を持ち、それぞれの要望に応じれるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所検討会を開催し利用者と家族のニーズを探しホームでのサービスが一番適しているか他のサービスを利用すべきか十分に話あっている。又利用者と家族にも説明行い理解と協力を得られるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の利用者への接し方、特に対等な関係についての研修を行っている。朝・夕の申し送りの中で職員が介護者に一方的な立場にならないよう自己啓発を促している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の誰もが家族から接しやすい雰囲気を持てるよう笑顔や挨拶を心がけている。気軽に来て頂けるようアットホームな環境づくりに努め利用者や家族が気兼ねなく落ちついた時を過ごせるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に限らず古い知人の方々にもホームに気兼ねなく来て頂けるよう声かけしている。職員と馴染みの場所へ外出し、家族にも馴染みの場所への外出の機会を持って頂けるよう呼びかけそれを支援している	地域に暮らす馴染みの知人が頻りに訪れて、利用者も心待ちにしている。遠方の外出や墓参り等希望に添った支援を行い、一人ひとりの思いを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性などを考慮し食事の席や、お気に入りの場所などの配置に気を配っている。職員が積極的に声かけし孤立する方がいないよう又コミュニケーションに利用者の話を取り入れ利用者同士が係りやすいよう努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後でもご家族より近況連絡があり又他施設で亡くなられても連絡があり、有志職員が弔問する時もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを大切に希望や意向を拾いあげるように努めている。又困難な方でも表情や意欲、言語に注意し出来るだけ希望に添えるよう努める	日々の声掛けで思いや要望の把握に努めている。聞き取りが困難な場合、言葉や表情で感じ取るよう職員間で確認し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との交流を深め利用者の生活歴等の把握に努め、これまでの暮らしについて利用者にコミュニケーションの中で伺いサービスに活かせるよう配慮し仏壇を持って来られる方もいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りや、ケアカンファレンスの中で職員それぞれの意見を検討し客観的かつ総合的な利用者の心身状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を取り入れた介護計画の作成に努めている。又必要に応じて医療機関とも連携し利用者にとって負担の少ない介護方針を検討している	アセスメントシートを参考に計画書の日常動作・身体状況項目の内容を細やかに分類して、現状把握を図りケアのポイントを掴み取っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援経過記録をもとに状況・状態に応じて別紙をもちいて細やかな情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一敷地内にデイサービスがあり、人数が空いていればデイサービスでレクリエーションを楽しんで頂いたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練等：緊急災害時の避難訓練、消防署との連携 民生委員：認知症高齢者への理解、運営推進会議等の参加 教育機関：中学生との交流、職業体験学習の受け入れ ボランティア：各種団体行事の参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療を受診できるような医療機関へ連絡、説明行っている。又毎週、内科医・精神科医の往診があり、連携を図る事で適切な医療を受けられるよう努めている	利用者が希望するかかりつけ医の受診を支援している。又事業所と契約した内科・歯科の往診が週1回あり、身体状況のチェックを行い家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に協力頂いている。利用者の症状や変化について相談し支持やアドバイスを受けている。必要時処置等依頼している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院の担当医や看護師・ソーシャルワーカーへ速やかに情報提供(サマリー)を行い早期退院へ向けた医療や看護を依頼している。又症状の中間報告を受け退院後の介護方針や通院、服薬などの相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の基本方針として重度やターミナルについての介護範囲を定めている。主治医とも相談し事業所として可能な介護のあり方を模索し利用者や家族の希望に合わせて他サービスや医療を利用するなど柔軟に対応している。又昨年1人看取りを行った	事業所として対応出来る支援方法を入所時に説明している。身体状況の変化に応じて、医療機関に連絡しているが、指針や確認書は交わしていない。	利用者の高齢化で疾患の再発や急変で要治療状態が起こる事が予想される。家族や契約・協力医療機関との連携を図り、統一した方針の作成を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に協力してもらい定期的に救急救命の実技指導を受けている。緊急時のマニュアルと緊急連絡網を作成し職員全員へ周知わかりやすい場所へ掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し職員へ周知させている。又年1回消防署指導による総合訓練(避難・通報・消火)を行っている	年一回の消防署指導による法人全体の避難訓練と緊急時の連絡体制を徹底をしている。近隣住民に非常災害時の協力を呼び掛けている。	二階建ての2ユニット型の住居環境と夜間の災害時を考慮に入れた訓練を日頃から職員と話し合い、地域住民と一緒に合同訓練の実現が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から利用者への言葉遣いや態度についての指導を行っている。プライバシーや個人情報保護に関する規約を定め周知させている	言葉使いと態度について意識し、利用者の気持ちを把握する事に努めている。トイレで排泄の際、羞恥心への配慮とさりげない声掛けをして、プライバシー保護を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの性格や表現方法に合わせたコミュニケーションを心がけ押しつけにならないよう注意しながら自ら意思決定しやすい雰囲気作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務としての規則は定めているが、それにより利用者にとって強制的とにならないよう配慮している。利用者の希望や体調に合わせて臨機応変な対応を心かけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コミュニケーションや表情等で利用者の好みを知り、毎日の整髪整容や服の着合わせ等の支援行なう。その際利用者と一緒に選びその人らしいおしゃれができるよう努める		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にメニュー説明し、同じ食材でどんな料理が出来るかなど料理への興味、意欲を持って頂く。利用者の出来る事、やりたい事の把握に努め職員と一緒にやっている	メニューと食材は委託業者に依頼しているが、おやつは利用者の希望を取り入れている。食前に口腔体操を兼ねて馴染みの唱歌を歌い、リラックスした雰囲気、職員と共に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材とメニューは食材店の専属栄養士が管理しアドバイスを受け提供している。水分は1日の目安量をもとに利用者それぞれの好みを取り入れ提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。自力での口腔ケアを促し出来ない部分を職員が介助し口腔内の清潔保持に努めている。又週1回の訪問歯科による指導やケアを受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日頃より排泄の量や間隔を観察、記録し利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め声かけ、誘導等の必要な支援を行っている	排泄チェック表を利用して、一人ひとりのパターンを把握している。気配や時間で声掛け、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師・薬剤師と相談指示仰ぎ、利用者の体調や体質にあわせて水分量や運動に気を配った対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の清潔保持の為に入浴日は隔日と定めているが、希望により午前・午後浴を選らんで頂き、体調や気分に合わせて別日に個別に入浴して頂きリフレッシュしてもらっている	原則は隔日になっているが、午前・午後の好きな時間帯を聞いたり体調変化に応じて、個別に対応して清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて自由に居室で休んで頂き夜間も出来るだけそれぞれのペースにあわせて就寝頂いている。明かりや空調にも配慮し安眠できる環境づくりに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師・薬剤師に相談指示仰ぎ服薬支援行っている。服薬内容の効能説明が紙面に記録されており又薬剤師に説明うけており申し送りファイルに閉じている為職員全員理解し説明できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションなどに、それぞれの趣味や楽しみを取り入れている。日常生活場面での役割もできており積極的に参加されたり参加促したりし充実した生活を送って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望、体調や天候に応じて戸外に出かけるようにしている。敷地内のスペースを利用し畑作業やお茶会などレクリエーションを行っている。季節ごとにボランティア職員等と協力し遠方へ出かけている	敷地内の畑や花壇を見に出かけたり、ホーム周辺の住宅地・川へ散歩に行っている。ボランティアの協力と職員で四季の花(桜・梅・菖蒲・コスモス)を楽しめる寺社に出かけ、季節感を取り入れた外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物と一緒に行くときは各自財布を持って頂き好きな物を自由に選んで頂き自分で支払いをしてもらう。 自販機で好きなジュースを選んでお金を入れている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話はいつでも利用できるよになっている。家族と話し合い時間帯や曜日など確認しておきゆっくり会話できるよう配慮している。手紙をかけない方には職員が代筆し名前だけ自筆して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアでは温度や湿度に気を配り安全・快適に暮らせるよう努めている。又季節感ある飾りを適度に行い四季を感じてもらえるよう努めている。 トイレは消臭剤を使用し不快な臭いが漏れないようにし定期的に消毒行い清潔に保っている	食堂とリビングを兼ねたフロアは、広く明るい。職員と共に創った季節感ある折り紙やカレンダー・直近の行事の写真を壁に飾り、家庭的な雰囲気にあふれた居住空間となっている。トイレや風呂場は、常に清潔を保つよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを各所に設置し、いつでも誰でも気に入った場所でくつろいだり、お話ししたり出来るよう工夫している。車椅子の方が自由に移動できるよう広い空間も作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの物で生活して頂けるよう設備は必要最低限にとどめている。居室の壁・ジュウタン・カーテンの色をそれぞれ変え、自分の部屋を認識しやすくしている。窓も規格外で大きくとり採光に気をつけている	家具や仏壇・飾り物は馴染みの品を持ち込み、利用者に合わせたジュウタンとカーテンの色を取り入れ、居心地良く生活できる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体にバリアフリーを実施しており不要な段差がない。又手摺りを各所に設置し状況に応じ増設または撤去している。床面は全てカーペット敷で転倒のリスクを少なくしている		